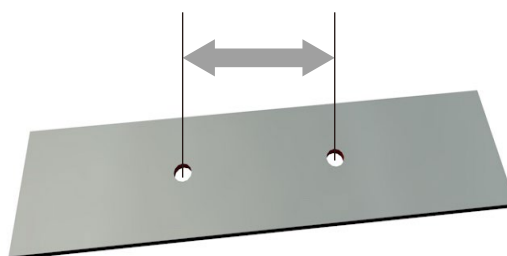
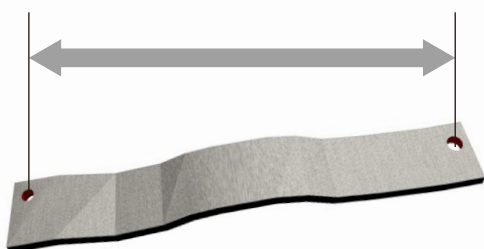


## 9. 鋼板の歪について

歪には、製品の熱膨張速度の違いや残留応力の開放など、熱による多くの要因が関与するため歪量を事前に予測することは極めて困難ですが、製作時に軽減対策を行うことは可能です。

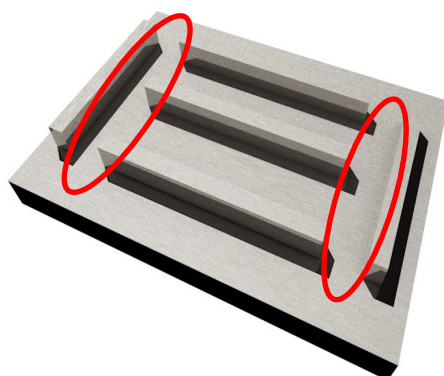
- 吊り穴の位置で製品の自重の差による発生率を抑えることができます。



- 補強を入れる。鋼構造部材は補強材のあるものは歪が小さくなります。

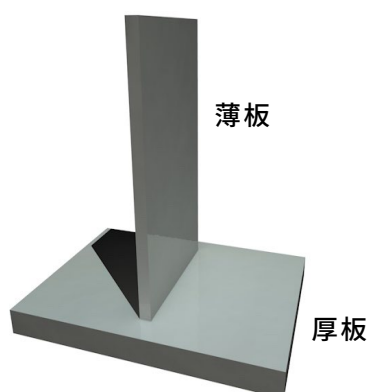


踊場編板の肉厚について、4.5mm以下は歪みが発生しやすいため、6mm以上を推奨します。



隙間を空ける

- 素材の板厚が大きく異なる組み合わせは避け、めっき後にボルト接合をおすすめします。



板厚差が大きく異なると熱膨張の度合いが異なり歪や溶接部の破損を生じます。